

平成29年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

平成29年6月20日（火曜日）

議事日程第4号

平成29年6月20日（火曜日）

〈午前10時00分 開議〉

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 一般質問
日程第3 議案第81号

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 一般質問
日程第3 議案第81号

〈応招議員〉 20名

〈出席議員〉 20名

1番	平澤	惣一郎	君	2番	東野	恭行	君
3番	山本	剛	君	4番	吉川	慶一	君
5番	五十嵐	健一郎	君	6番	滝川	正義	君
7番	佐藤	孝	君	8番	新保	峰孝	君
9番	田原	実	君	10番	保坂	悟	君
11番	笠原	幸江	君	12番	斉木	勇	君
13番	中村	実	君	14番	大滝	豊	君
15番	田中	立一	君	16番	古川	昇	君
17番	渡辺	重雄	君	18番	松尾	徹郎	君
19番	高澤	公	君	20番	吉岡	静夫	君

〈欠席議員〉 0名

+

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市	長	米田	徹君	副	市	長	織田	義夫君																		
副	市	長	木村	英	雄	君	総	務	部	長	金子	裕彦君														
市	民	部	長	岩	崎	良	之	君	産	業	部	長	斉	藤	隆	一	君									
会	計	管	理	者	兼	務			企	画	財	政	課	長	補	佐	嵐	口	守	君						
総	務	課	長	山	本	将	世	君	能	生	事	務	所	長	土	田	昭	一	君							
定	住	促	進	課	長	斉	藤	喜	代	志	君	市	民	課	長	池	田	正	吾	君						
青	海	事	務	所	長	井	川	賢	一	君	福	祉	事	務	所	長	水	嶋	丈	明	君					
環	境	生	活	課	長	五	十	嵐	久	英	君	交	流	観	光	課	長	渡	辺	成	剛	君				
健	康	増	進	課	長	横	澤	幸	子	君	建	設	課	長	見	辺					太	君				
商	工	農	林	水	産	課	長	池	田	隆	君	会	計	課	長	丸	山	幸	三	君						
復	興	推	進	課	長	斉	藤	孝	君	消	防	長	大	滝	正	史	君									
ガ	ス	水	道	局	長	木	村	清	君	教	育	次	長	佐	々	木	繁	雄	君							
教	育	長	田	原	秀	夫	君			教	育	委	員	会	こ	ど	も	課	長	兼	務					
教	育	委	員	会	こ	ど	も	教	育	課	長	山	本	修	君	教	育	委	員	会	生	涯	学	習	課	長
教	育	委	員	会	文	化	振	興	課	長					中	央	公	民	館	長	兼	務				
歴	史	民	俗	資	料	館	長	兼	務						市	民	図	書	館	長	兼	務				
長	者	ヶ	原	考	古	館	長	兼	務					監	査	委	員	事	務	局	長	大	嶋	利	幸	君

+

+

〈事務局出席職員〉

局	長	小	竹	和	雄	君	次	長	松	木	靖	君
係	長	山	川	直	樹	君						

〈午前10時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、6番、滝川正義議員、15番、田中立一議員を指名いたします。

日程第2、一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

発言通告書に基づき以下質問をいたします。

質問1、地域医療の課題、看護師等医療人材の確保について。

- (1) 糸魚川圏域の医師、看護師、医療スタッフの充足について、現状と課題について伺います。
- (2) 医師、看護師の労働環境改善について伺います。
- (3) 戦略的な看護師育成、確保について伺います。
- (4) ホームページなどでの周知、市内中学校、高校や糸魚川総合病院との連携、長期間の支援による医療人材育成など、糸魚川市の支援強化について伺います。

質問2、日本海を見渡す（仮称）希望の丘海望公園の建設、子供がやってくる仕掛け、木造主体の町並み再生など糸魚川の未来をつくる復興再生まちづくりについて。

- (1) 復興再生まちづくりの計画の進捗状況について伺います。
- (2) 被災者の思いに沿った計画、市民が主役の計画になっているか伺います。
- (3) 糸魚川らしさ、糸魚川の個性を生かす計画になっているか伺います。
- (4) にぎわいづくりのための研究を糸魚川版DMO（Destination Marketing Management Organization）として行っていますか。観光協会や商工会議所との連携はどうか伺います。
- (5) 3月議会一般質問で提言しました水の空間と緑の空間を配置して、素敵な景観づくりと防災強化の両面に生かす計画となっているか伺います。
- (6) 3月議会一般質問で提言しました地域の若者、斬新なアイデアを持つデザイナーや建築家、マネージャーやマーケッターが参加して計画がつけられているか伺います。
- (7) 全員協議会で質問しましたにぎわいづくりや生活に必要な駐車場の台数や配置の方法は検討しましたか伺います。
- (8) 日本海を見渡す（仮称）希望の丘海望公園の建設、海水を引き込んだ防火貯水槽（釣り堀）など、子供たちがやってくる仕掛け、木造建築主体の町並み再生など、前例にとらわれ

ない復興再生計画をつくり、時間をかけてでも実行することが糸魚川の未来につながると考え提言します。いかがですか。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本年5月現在で医師69人、看護師は26年12月の調査で280人となっており、国・県平均より少ない状況であり、医師、看護師の確保に引き続き努めてまいります。

2点目につきましては、救急医療体制を支える医師や看護師の負担は大きいものと認識いたしております。環境整備や人員確保等により負担が軽減されるよう支援をしてまいります。

3点目と4点目につきましては、就学資金貸与事業に加え、今年度から医療関係職員定住・定着支援事業に取り組み、県や病院と連携しながら医療従事者を目指す人材育成に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、6月8日に第4回目の駅北復興まちづくり計画検討委員会を開催し、委員会として取りまとめる提案書案について検討いただいております。

2点目につきましては、被災者関係者説明会や個別意向調査、グループ別意見交換会などでお聞きしたことを踏まえ、検討委員会で議論をいただいているところであります。

3点目につきましては、地域特性を踏まえて、「カタイ絆でよみがえる笑顔の街道糸魚川」をキャッチフレーズに掲げ、6つの重点プロジェクトを設定いたしているところであります。

4点目につきましては、DMOの趣旨である稼ぐ観光を意識しながら、市外からの誘客ツアーなどの検討を糸魚川市観光協会と進めております。

5点目につきましては、自然水利の活用や植栽・植樹などにより、住んでいる方や訪れる方にやさらぎと潤いを与える空間を検討してまいります。

6点目につきましては、市民、関係団体、有識者等のできるだけ幅広い視点からのご意見を踏まえ、復興まちづくり計画に反映をしているところであります。

7点目につきましては、町なか駐車場の必要性を位置づけており、規模や位置について引き続き検討してまいります。

8点目につきましては、計画案で日本海を生かしたにぎわいを創出するため、海を展望する施設の検討などが盛り込まれております。

以上、お答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、地域医療の課題、看護師等医療人材の確保について2回目の質問を行います。

糸魚川圏域の医師、看護師、医療スタッフの充足について担当課に伺いたいと思います。

まず、うれしいニュースの紹介から、市内糸魚川総合病院へこの春から新しく6名の医師をふやすことができたというこの点について伺います。

診療科目としては、内科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、また老健でもお一人先生に来ていただいたと、そのあたり詳細に紹介をしていただきたい。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

おはようございます。

糸魚川総合病院の常勤医師がことしの4月より6名ふえました。これまでの取り組みの成果があらわれたものと考えております。

まず、脳神経外科医ですが、救急医療の充実のためにも常勤医師確保は大きな課題でした。常勤医師確保に向けて糸魚川総合病院が精力的に取り決めをしてきた成果であると考えております。また、老健に常勤医師が配置されたことで兼務されていた医師の負担が軽減され、老健の医療も充実したと考えております。

次に、内科医師ですが、心臓疾患治療への取り組みが評価され、循環器内科の専門医師が1名ふえ3名体制となりました。

産婦人科医については、2名体制となり、これは昨年度から病院と市で取り組んでいる市内産婦人科確保対策事業が大学に評価されたものと考えております。

麻酔科医は、市の医療医師養成就学資金貸与者事業の第1号の方で、糸魚川総合病院で研修後、大学で麻酔科医として研修し戻って来られました。

最後に、整形外科医ですが、糸魚川総合病院で研修医としておられた方が大学の医局に入られた後、糸魚川総合病院の勤務を希望され、大学の派遣で3名体制となりました。

研修医育成に取り組んでいる成果だと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

詳細にご紹介いただきました。

次の質問で、医師不足で現状維持がままならないところが多い中で大変なことだと。それで6名ふえた原因ということを知りたいと思ったんですが、お答えいただいたということで。

では、この糸魚川総合病院の戦略、それから糸魚川市からの支援ということが大きな要因だと私は考えております。総合病院の樋口病院長の医師確保と増員への強い執念と、冷静で粘り強い大学医局への対応、そして何よりも糸魚川の地域医療を守るという崇高な使命に燃えていらっしゃるものが今日の結果をもたらしたものと思います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に樋口院長のやはり強い医師確保の思いをしっかりと出していただいて、それを大学も受けとめていただいたという、非常に樋口院長の影響というのは大きいものと捉えておきまして、非常に区域医療にも貢献いただいていることを心より感謝いたすところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もちろん米田市長のこれまでの10年に及ぶ医療体制確保と地域医療の施設充実への取り組みがなければこのような成果もなかったと思います。この場から感謝を申し上げます。

また、市民部健康増進課の働きの功績でもあると思います。これからもよろしくお願い申し上げます。

この際、専門的な対応が可能になったことを皆さんに紹介したいので、いま一度担当課より答弁いただきたいと思います。

救急医療で欲しかった脳神経外科、内科の循環器の専門医、この点についていかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

脳血管外科、循環器内科の専門の常勤医師がいることで高度な医療である脳血管疾患や心臓疾患の検査、治療が地域内で可能となりました。安心できる救急医療体制の確保につながっているものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、高度な医療を可能にするための課題について伺いたいと思います。

手術や治療への対応などについて伺いますが、まず患者の確保について、病院も経営ですから患者がいて治療があつて初めて運営できるわけです。まずその点について。

それと、後で触れますが、看護師が慢性的に不足する中での対応について、ほかにも課題があれば、そのことについても伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

高度な医療が地域内で可能となると、開業医の先生からのご紹介で病院に来られる方も増加すると思います。病診連携の形ができることで市民に充実した地域医療が提供できるものと考えております。

看護師についてですが、看護師は基準どおりに配置されておりますが、よい医療や高度な医療の提供には看護師をふやすことが必要になると考えますし、それが課題であると考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、今後の糸魚川市からの医師確保支援の継続について伺いたいと思います。

糸魚川総合病院の戦略的な確保策、それから糸魚川市からのそこへの支援、どうなっていくのか、その課題について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

市の就学資金貸与制度を継続し医師確保に努めてまいります。また、医師確保対策において大きな効果が期待できる研修医育成への支援についても引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくお願ひしたいと思います。

ここで少し数字をお聞かせいただきたいのですが、私は毎年の6月の一般質問で糸魚川医療圏域の医師数と糸魚川、上越、新潟県、全国の人口10万人当たりの医師数の比較、同時に看護師の数とほか地域医療についてお答えをいただいております。先ほど医師の数は市長からお答えいただきました。看護師の数も伺いましたが、全国のほかの地域との比較、このあたり準備してあればお願ひしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

人口10万人当たりの医師数、看護師数の比較についてですが、新潟県の統計資料によりますと、

医師が糸魚川で132.9人、上越で161.0人です。新潟県で188.2人、全国で233.6人です。看護師数は、糸魚川が620人、新潟県が908人、全国では855人となっており、医師、看護師ともに国や県の平均よりも低い状況が続いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

圧倒的に数が少ないということですね。基準は満たしているけども、やはりゆとりがないということが感じられると思います。

何が問題かと言えば、医師、看護師が少ないことでさまざまな治療ができないことへの病院、市民の苦情についてであります。医師の数がふえても看護師がふえないと苦情は続くでしょう。これが大きくなりすぎると医療スタッフのモチベーションが下がる。それで医療の質も下がる。結果困るのは市民であると。病院を大切に思い医療する方々であるということだと思います。市民に伝え、理解を進める取り組みが欲しい。この点、危機感を持って行政から市民に伝えることができているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

市民の皆様には区域医療の現状をご理解いただくことは、今後の地域医療を支えていく上で大事なことと認識しております。糸魚川総合病院は、地域医療を守る市内唯一の病院であります。救急医療を担っている大事な基幹病院であることを市民の皆様にご伝え、深刻な医師、看護師不足を初め厳しい救急医療の現状など、危機感を共有できるよう今後も周知に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

上越、そして富山への患者の流出が現状のままでとまらないと、やがてではなく、すぐにも地域医療崩壊へとつながることについて、市は病院や医師会と話し合いをしているか。私は、糸魚川総合病院に6名もの医師がふえた今が、糸魚川の地域医療への市民理解を進めるチャンスだと思っております。このチャンスを生かして今後の医療体制確保を進める、そのことを市長が先頭に立って進めていただきたい、そう思います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように、まだまだ医師不足、看護師不足が続いておる現状でございます。今、我々といたしましても、医師会の皆様方、そして糸魚川総合病院の皆様方と懇談会をさせていただき、またいろいろと情報交換をさせていただく中において、少しでもやはり医療環境の充実、そしてまた医師の確保、そして看護師確保を今していきたいということで取り組んでおります。

そういう中において、市民の皆様方もそういったところを理解いただきたいと思いますとおるわけですが、やはり姫川病院閉院のときの危機感はなくなっているのです、その辺のもうちょっと医療の危機をもう少し市民の皆様方にわかっていただけるようなまた情報共有をしていきたいと思っております。

引き続き、この問題については糸魚川市にとって大切なことございまして、ただ、数の問題だけではなくて、やはり位置づけもそうございまして、上越、やはり離れておるわけでございますので、そしてまた黒部とも離れておるわけでございますので、糸魚川の医療というのは、ここでしっかりと成り立っていくような形でないとなれば市民の皆様にはご迷惑をおかけすると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これからの心配は、大学医局の医師引き揚げや、それから医師のモチベーションの低下、また厚生連の糸魚川地域の特殊な医療事情への理解と支援が今後も変わらないかということだと思っております。その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大きくやはり変わる恐れもあります。例えば樋口院長が退任されたときにはどういう状況が起きるのか、そういうこともありますし、医局の考え方が変わったときにはどうなるのか、また国の制度も変わる部分もあるわけでありまして。そういったときに大きく影響するのは、やはり最前線の一番弱いところから影響が出てくるというのは、研修医の制度が変わったときに真っ先に糸魚川がこのあたりを食らった状況がございまして、そういったことをやはり考えながら日ごろの医師確保に努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市長がおっしゃるとおりだと思います。本当に危機感を絶えることなくもって取り組まなければいけないと私も思います。

もう1つの心配は、総合病院と開業医が連携して行う糸魚川の救急医療体制です。

医師会の理解・協力でできている素晴らしい仕組みですが、開業医の高齢化で数年先にも現在の体制を続けることができるのかどうか、ここへの対応について市はどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

議員ご指摘のとおり、市内の開業医の高齢化により、今後、開業医師の減少が予想されます。市では診療所開設等支援事業を取り組んでおりますので、そういった事業の周知を図り、新規に開院される医師に支援をしてみたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、次に、戦略的な看護師育成確保について伺います。

慢性的な看護師不足で医療の現場は大変と聞いております。離職する看護師も多いと聞きますが、この点を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

病院をやめられる看護師は、毎年何人かおられることを把握しております。理由については、それぞれとお聞きしております。看護師として市内で働き続けていただくための対策を病院と一緒に考えていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

聞きたいことは、糸魚川市としては、ここへの支援をどう考えているかということなんです。特に糸魚川総合病院で働く看護師を確保する市からの対応について、病院や厚生連など相手があることですが、市からの力強い看護師確保策、何か打ち出していただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

市内における看護師の確保は、最重要課題であります。このことは糸魚川総合病院や新潟県も同

じ認識でありまして、今年度から新規に病院や県と連携して医療関係職員定着支援事業に取り組んでおります。地域の中で医療従事者をふやすということを目指しておりまして、人材育成に努めて地域で働く人材をふやしていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川総合病院に看護師をふやすには、厚生連から糸魚川への派遣を強化していただくことが一番現実的です。ただ、どこでも看護師不足といった現状ではそれも困難ではないか。なので市としても、病院の意見を聞きながら糸魚川に看護師をふやす施策を絶えず考えていかないと問題は解決しないと思います。

私は、昨年9月議会一般質問で、島根県浜田市の介護職確保の取り組み、都会のシングルペアレントの移住と就労促進事業を紹介しましたが、覚えていらっしゃるでしょうか。糸魚川の看護師確保にもこういった取り組みはどうかとそのとき聞きましたが、これについてはその後検討されましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

昨年、福祉事業の人材確保でご提言をいただきました。看護師確保は、いろんな方法を用いて確保に努めていかなければならないと考えております。ほかでの取り組みを参考にしながら、看護師の資格をお持ちの方が糸魚川においでいただけるような、そういったシステムをつくれるように病院や関係部署と連携して有効策を検討していきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そのようにお願いいたします。

市のこれからの取り組みとしては、糸魚川総合病院の戦略的な医師増員を見習って高校生、あるいは中学生から早くに医療の道を志している人たちへの支援ではないかと思えます。病院と連携して長期的な医療人材確保事業を進めてほしい。これについてもこれまでの一般質問の中で課題としてきたが、いかがでしょうか。病院と連携については担当課から、学校との連携については教育委員会から伺いたいと思えます。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

高校生の病院での体験学習のときに、市の制度を説明したり、看護大学、専門学校へ病院の職員が伺っておりますので、そこに一緒に伺い周知活動を協働で実施する予定に今年度はしておりますので、そういった形で努めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔こども教育課長 山本 修君登壇〕

○こども教育課長（山本 修君）

教育委員会では、キャリア教育を重視した活動を今年度取り組んでおります。中学生の職場体験の充実を考えておまして、職場体験受入先の事業所と学校とをお招きしての事業所の説明会を今週開催をいたしますが、それに糸魚川総合病院からも出席をしていただく予定になっております。

また、白嶺高校では、糸魚川総合病院との連携ということから、糸魚川総合病院関係者を学校評議員に今年度から新たにいただいていたというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

行政の中では、健康増進課と、それから教育委員会、それと学校、病院、これらが強く連携することで看護師確保への道というのが開かれていくのではないかなと思っておりますので、よろしくお願いたします。

看護師は就職に困らない職業だと思います。たとえ一旦都会で就労しても、数年、あるいはそれ以上地元を離れても糸魚川へ戻ってくればすぐに働ける仕事です。また、専門的な資格を取得することが尊重され、活躍の場も与えられる社会的にも地域にとっても貴重な人材です。まずはその気づきです。看護師になるには大変な努力が求められますが、志を持つ若い人が長い年月をかけても看護師となれるように長い年月のサポート、糸魚川に戻って働いていただくための糸魚川市ならではの仕組み、何かできないかと常々考えています。今回の私の質問のメインテーマはそこですが、ぜひ行政の知恵を出していただきたい。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな考え方、また、少しでも取り組めるものについては、今までも取り組んでまいっておるわけございまして、今、課長がお答えさせていただいたように、常に情報交換をさせていただきながら、制度設計をさせていただきながら、糸魚川に合った施策をつくっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

たとえ長い期間を要したとしても、看護師に育って糸魚川で働いていただく仕組み、ぜひよく考えて進めていただきたい。その方法まで私は提言できませんが、そのためのアイデア出しの場を早く設けて計画としてつくって進めていただきたいと思います。その必要性を強く申し上げたい。

医療行政を担当してこれからどう取り組まれますか。担当にも伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

医療関係職員の確保・定着は、非常に大事なことです。職業として医療職を選択する中高生をふやすための取り組みを病院、県と連携し、あるいはまた関係部署と連携しながら積極的に進めてまいりますと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それと、働きやすい環境整備を進めることについて、これは現在、看護師で働いている皆さんの話を聞いていただきたい。市民の命を守るために働く貴重な市民であるわけですから、疲れ切っている看護師さんの時間をいただくのは申しわけないし、困難なことかもしれませんが、さまざまな課題や悩みは聞いてみなければ理解できないと思う。新潟では、研修医が命を絶つという出来事がありました。とても気の毒で残念なことです。働きやすい環境整備のための市からの看護師への支援策は何か、現場の声を聞いて検討し、形にしていく、このことに取り組んでいただきたい。最後になりますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川の非常に私は地域医療の中でいいところは、やはり医師会と病院がしっかりと連携をとっていただいていること。そしてまた、それと行政も中に入っておることがやはり私はほかの地域にない1つの特色であろうと思っております。それが救急医療だったり、また、今、看護師不足にもそういったものがございまして、そういったところに波及していけるようにしていきたいと思っておりますし、その中にも看護師さんも加わっていただいているわけがございまして、私はそういったところをもう少しまた本当に効果のある施策になればということで、これからも捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

言葉じりを捉えるようですけど、市長、看護師さんを何かサブのようにどうしても我々考えがちなんですけど、糸魚川で今一番大事な医療人材は看護師だということでございますので、やっぱり看護師さんを最も大切にするまちという方向性を打ち出させていただいて情報発信をすることでおいでいただけるんではないか、また育ていただけるんではないかと、このように思います。

あすの地域医療を守るには、まずは看護師の働きやすい環境整備から進めたい、このことをこの場から訴えまして次の質問へと移ります。

復興再生のまちづくりについての2回目の質問です。

復興再生まちづくりの計画の進捗状況について、いま一度担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

おはようございます。

復興まちづくり計画検討委員会におきましては、第4回を6月8日に終わらせていただきました。そこでの集中審議を経まして今月の28日の第5回の復興まちづくり計画検討委員会におきましては、提言書ということで米田市長に手渡していただくという日程になっております。その後、市民の皆さんのパブリックコメントを経まして復興計画として公表してまいりたいというふうな状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この計画を8月のうちにまとめるということですが、そのスケジュールは市民に理解されてのことでしょうか。また、選挙を挟んで対応できなかった議会との協議は今ようやく始まったところという感じです。8月という期限、そのスケジュールに合わせる形、これ一方的な進め方になっていませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

昨年の12月22日の発災以来、毎月のように被災者説明会を皆様にさせていただいてきております。その中におきましては、検討委員会でご審議いただいている内容につきましても、毎月、被災者の皆様にはフィードバックをさせていただいておりますし、議会の皆様とも全員協議会という場で被災者の皆様にお話しする内容を議会の皆様にもお話を申し上げてきているという状況でござ

います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

行政側と市民、被災者、それから行政側と議会、私、温度差感じるんですよ。何かうまく言葉で言えない。この議会の中でそういう言い方申しわけないけど、どこかちょっと行政のほうが進んでいってしまっているという、そういう感じを受けるんです。このことはまた後で触れます。

では、通告書の順に従いまして再度伺ってまいります。

糸魚川らしさ、糸魚川の個性を生かす計画になっているか担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

失われた4ヘクタールの糸魚川の中心市街地の本町通り商店街には、昔からのいろんな歴史、また風情を醸し出すような建物も数多くございました。これから復興を進めていく中におきましては、復興計画の1つのキャッチフレーズとしまして「カタイ絆でよみがえる笑顔の街道糸魚川」、これらにつきましては、地域素材、また、今まで市民の皆さんとの意見交換の中からイメージされてきたものをこのキャッチフレーズで表現したものでありまして、この表現に沿うような復興計画を今策定しているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

キャッチフレーズは大変結構なんですよね。ただ、キャッチフレーズを重ねただけでこの糸魚川らしさ、糸魚川の個性というものがつくれるのかと言うと、どうもそこが疑問だ。もっとみんなで知恵出しをして意見交換をして、なるほどそうだよねというそんな話がまだできてないと思うんですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

これまでも検討委員会の皆様の検討委員会の場でのご議論、また、あるいは検討委員会に参画いただいております団体からのご意見も書面でいただく中で、いろんなご提言、アイデアもいただいていたところでもあります。それ以外にも市内のまちづくり団体等からもご提言もいただいております。それらを検討委員会の中で集中審議していただきまして、今、復興計画のたたき台としての計画案を今つくっていただいているところでございます。これから8月の公表に向けまして、これからは実際には実行に移るわけでありまして、今ご提言のように、被災者、市民の皆さんとキ

ヤッチボールしながら具体化に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、にぎわいづくりのための研究を糸魚川版DMOとして行っていますかということです。また、観光協会や商工会議所との連携はどうですか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

商工会議所、観光協会との連携ということでございますけども、まず商工会議所の皆さんとは、会議所に設置されましたまちづくりビジョン特別委員会、それには毎回のように市の関係する課も同席をしてビジョン特別委員会でのお話もお聞きしているところでございますし、ビジョン特別委員会のほうには、検討委員会のほうで出された内容につきましても、被災者説明会と同様にビジョン特別委員会のほうにもフィードバックをさせていただいております。また、観光協会につきましては、検討委員会のメンバーとして観光協会のほうからも参画いただいておりますので、これまでも商工会議所、観光協会とは連携してまいってきております。

先ほどもご説明しましたけども、これから計画を具体化していく中におきましては、今まで以上に連携をしながら、お互いに役割分担があると思っていますので、そこら辺をお互いに知恵を出しながら一丸となって取り組むべき必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回あえて糸魚川版DMOということを出しております。観光地がにぎわって稼げるまちになるように、マネージャーやマーケッターというそういった方、キーパーソンですか、連携をとってどういうふうにしたら稼げるまちになるかねということを進めていく組織だと思っておりますが、今回、被災対応ということだけでなく、そこから先の糸魚川の大きな発展に向けてマネージャーやマーケッターというそういう人たちを投入しているか、まず糸魚川にいるのかということ、そこら辺を伺いたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川版DMOの取り組みの今動きでありますけども、第1段階としまして、糸魚川市観光協会が法人化しました。さらに旅行業の取得をしたということで、今、第1段階、第2段階のステップ

を歩んでいるところです。次の第3段階のステップとしましては、市と交通事業者、さらに宿泊業者等多様な皆さんが集まる体制整備を今取り組みを進めている中であります。そういった取り組みを進めていく中で、今、ご指摘のような人の問題、この確保にも今後考えていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

お尋ねしていることは、観光部局、あるいは観光協会との連携の進め方で年度ごとにやっていくよということを聞いているんじゃないんですよ。緊急時にどうしたら糸魚川のまちの発展につながるような戦略がつかれるか、今何がやれているか、やれてないんだったらすぐにやらなきゃいけないでしょうということ、そこを問うてるわけです。いま一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今回の計画の策定委員会の中でも観光協会のほうで提言をまとめております。その中で復興まちづくり計画について観光協会のできることに、それは防災等の視察案の実施であったり、商店街の特色を生かしたツアーの実施であったり、商店街や観光施設についての情報発信であると、こういった提言をさせていただいております。現在、この取り組みに向けて観光協会のほうでは鋭意取り組みを進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

被災地のツアーというものを、これをいわゆる商品化していくわけでしょう。そのことに観光協会が取り組むと。業務の一環としてやるのはいいんですけど、私はそのことは消防が対応すればいいと思うんですよ。観光協会はやっぱり復興のまちづくりの戦略をつくることですよ、今、全力を挙げてやることは。そのツアーを皆さんにお知らせしたり、来た方にお金を取って一々説明する、あるいは資料の説明をするというところを主としてもらっちゃ困るなというそういう感覚があるんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

ご指摘のとおり、観光協会が全体をコーディネートしていくこと、これが一番重要だということに思っています。その中で、では観光協会が何をできるかといったことをあわせて考えているとこ

でありまして、いずれにしましても、どうお客さんが糸魚川に来てもらって、糸魚川のまちを見ていただくかと、こういった取り組み全体を考えながら今検討を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

基本を間違えると市民から誤解されますから計画が進みません。そこはひとつ気をつけてください。

次に、3月議会一般質問で提言しました水の空間と緑の空間を配置して、すてきな景観づくりと防災強化の両面に生かす計画となっているか改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

3月議会でもご質問いただきました。そのときのご質問と重複する分もございますけども、先般の特別委員会でもお示しましたように、まちの将来イメージの中に海望施設でありましたり、にぎわいの広場と一体となった施設でありましたり、あるいは空地があれば公園というふうなことで今計画の中には盛り込んでおるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

期待していることは、基本計画とはいえ、提言とはいえ、そこに行ってみたいなど感じるようなそういうビジョンを打ち出してほしかったんです。それがまだない。そのところをこれからと言いますが、早急に進めていただきたいと思います。

それで、もう1つ、3月議会一般質問で提言しました地域の若者、それから斬新なアイデアを持つデザイナーや建築家、こういった人たちが参画して計画がつけられているのかということをお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

この6月議会にも商工費のほうで補正を上げさせてもらっておりますけども、大学連携をしながら外からのご意見もお聞きするというふうなかかる経費も今回補正でお願いしておるところでございますし、これまでの検討委員会の中におきましても、防災面、建築面、それから都市計画面、それからにぎわい面ということで、各方面の有識者の方にも入っていただきまして、それぞれの知見をいただきながら今まで復興まちづくり計画をつくり上げてきております。

今後の展開期の中におきましても、それら有識者の皆様、あるいは今いろんなまちづくりを進め

るに当たりまして、コンサルとも連携しながら計画をつくっているところもございますので、その中におきまして今ご提言のような皆様方とのお知恵をいただくことも検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そのことは悪くないんだけど、私が期待しているのは、斬新なアイデア、それからビジョン、プラン、そういったものがまだないんじゃないかなということなんです。例えばえちごトキめき鉄道のリゾート列車雪月花がありますよね。あの車両を設計した方は、非常にいろんなことを勉強されている。それから、やはり国際的な評価を得るだけにさまざまなことを知ってるわけですよ。ですから、こういう方こそ今回入っていただいて、例えば雁木のデザインでもどこのデザインでもいいじゃないですか。その方が持っている力をおかりする。それによって個性ができるんですよ。大事なことですよね。

それから、建築家につきましては、有名な建築家に何か仕事を依頼するというのではなくて、糸魚川のことにはやっぱり働きたい方がいらっしゃるんじゃないかと。というのは、糸魚川には建築家の村野藤吾の有名な谷村美術館があります。それから上越出身の建築家渡邊洋治の善導寺、この2つは建築のことを勉強している方たちはほとんど知っているんです。そういう方たちが糸魚川に来ていただくような仕掛けをして、その方たちが持っているアイデアとかプランとかをボランティア的に出していただくことでまちの魅力づくり、個性をつくっていくことに役立てたらどうかと、そういう提案をしているんですね。工事を発注しなさいということではないんです。そこら辺のソフト、もう少し何かいいものをつくれませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（齊藤 孝君）

我々の復興まちづくり計画を進めながら、復興まちづくりという言葉を使いますが、その復興をとってまちづくりなんだろうなという気持ちで復興計画を今まで進めてきております。

今ご提言のように、いろんな斬新なアイデアを復興計画に盛り込んで糸魚川の将来のためにというふうなご提言でございますし、また、ご縁のある方をどのように使っていけばいいかというふうなご提言だと思っております。

今お話いただいたようなご縁がある方、またほかにもご縁がある方もおられるかと思っておりますので、そのような方々のお知恵を糸魚川の復興に役立てていただけるような場面があれば、ご協力をお願いしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひもう1つレベルアップしていきましょう。注目を浴びるようなまちづくりをお願いしたいと思います。

さて、日本海を見渡す（仮称）希望の丘海望公園の建設の提言ですが、その必要性と可能性について行政の見解をいま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

海望施設につきましては、国道8号の1日何万台も通る車を引き込むというふうな観点で検討委員会からお話をいただいております。また、あるいは新幹線駅、日本海に一番近いというキャッチフレーズで糸魚川の新幹線駅をアピールしてきた。それから、やはり食の部分では、新鮮な魚が糸魚川で食べられるというふうなこと等で、やはり海とのかかわりは糸魚川にとっては切っては切れないものだというふうに考えております。

今あります、国道8号沿いにあります展望施設をより磨くことで、そのような交流人口の拡大を図られたりできないだろうかということも含めて今、海望施設というものを位置づけてはありますけども、これは計画段階でございますので、これから実施に向けては時間もかかると思いますが、いろんな関係団体、また関係機関のご協力も必要になるかと思っております。

今現在では、やはり計画に位置づけて、今後の実施に向けて時間はかかるかと思っておりますけども、関係機関のご協力いただきながら何とか進めてまいりたいというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう1つ、海水を引き込んだ防火貯水槽、これを釣り堀としても使うということなんですけど、それで私、子供たちがやってくるんじゃないかなと感じたんですね。それで提言をしていますが、その必要性と可能性について行政の見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

海水を引き込んで自然水利を消火活動に使うということにつきましては、今の計画の中にも災害に強いまちづくりの中でも検討材料として上がっておりますし、海水の引き込み方につきましても、先般、先進地のほうをうちのほうの課が視察をさせてもらっております。それを引き込んで今、釣り堀に、また子供たちのにぎわいという部分につきましては、まだまだそこまで今の復興計画の中においては検討としては入っておりませんが、活用ができるものがあれば活用したいと思いますが、復興につきましては、やはり次代を担う糸魚川の子供たちにも駅北大火の復興をしっかりと見守ってもらうようなそんな子供たちを育てていく必要もあるかと思っておりますので、にぎわいも含めて子供たちに教える機会というのも必要なんじゃないかというふうに思っ

おります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そのことそのものには反対はしないんですけど、ちょっと自分の話をしますが、子供のころ私、海岸で育ちまして、現在の国道の建設や姫川港の建設など、産業振興のためのインフラ整備で大きく変わる糸魚川のまちを高校生になるまでずっと見てきました。日本海、きれいな夕日、そんな景観が当たり前のものでした。現在の海岸を見ていただければわかるとおり、旧市役所や旧消防署あたりの海岸にその当時の面影はありません。小さな展望台に上がっても子供のころに感じた海岸で過ごす心地よさはありません。希望の丘海望公園などという発想することは、今現在も大変な思いをされている被災者の方のことを思えば、はばかれることなのかもしれませんが、ただ、50年前の海岸で遊んだ自分の経験を思い出し、50年かけて変わってきたまちのことを思い返し、50年後にはこうあってほしいという願いを込めて提言しました。

そこで、これは糸魚川市駅北復興まちづくりカフェで市民から出されたアイデアの1つ、海水を引き込んだ防火貯水槽をつくり釣り堀にするというものは、自分の子供のときの楽しい経験を思い出させるものであったので今回提言しました。このような子供たちがやってくる仕掛け、ぜひ欲しいと思います。副市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

木村副市長。〔副市長 木村英雄君登壇〕

○副市長（木村英雄君）

お答え申し上げます。

ただいま議員ご発言のとおり、将来を担う子供たちへこの糸魚川のよさ、こういったのを伝えるこういった施設、我々非常に感じております。もちろん観光客の皆さんも含め市民の皆さんが憩い、集える、そういった海と接し、一緒に楽しめる、こういった場が必要だと我々も考えております。

具体的な施策については、これからまさに市民の皆様や関係団体、関係機関、今、課長が申し上げたとおり、協議をしながら進めていくという形になっておりますが、そういった観点も持ちながら今後検討を進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

さて、被災者の思いに沿った計画、市民が主役の計画になっているかということのをいま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

我々、復興計画をつくりながら、一日も早く被災された皆様に現地に戻って再建いただけるように、また事業再建をしていただけるようにということで取り組んでまいっております。3月20日過ぎには現地から瓦れきもなくなりまして、4月に入りまして用地の境界立ち会い、その後、来月あたりからは基礎の撤去に入れる見込みとなってきております。

第1にやはり被災者の皆様が一日も早く生活再建、事業再建ができるようにということで取り組んでまいりましたし、取り組みの経過につきましては、先ほどもご説明申し上げましたけども、毎月被災者説明会をしながら、検討委員会での内容もご報告し、ブロックの意見交換につきましても、10プラス1できめ細かく皆様の意見を聞いてきているつもりでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私、6月13日の被災者の説明会に傍聴に行きました。その場で被災者の方から行政のきめ細やかな対応について感謝すると課長を名指しで言われて本当によかったなと思うんです。ただ、その方がそう言ったからといって皆さんがそう思ってるわけじゃないということもあわせて考えていただきたいと思うんです。これから皆さんにそうになっていただきたいというその気持ちはわかっているんですけど、6月13日の説明会ですけども、まず支援金、義援金の配分についての説明がありました。次に糸魚川市駅北復興まちづくりの計画の策定について、これ極めて簡単な説明がされて、しかも後で資料を読んでほしいと、そういうものでありました。

この説明会の最後に被災された商業者の方から意見が出されました。その要旨は、にぎわいのあるまちづくりということで雁木の町並みが計画にあるが、現在も雁木はある。駅前には新しいアーケードがある。しかし、雁木もアーケードも全く人が歩いていないときもある。雁木をつくれれば人が来るのかということのをいま一度検討してみるべきではというものでした。私からも同じことを聞きたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

今言われましたとおりだと思っております。ただ、この大火を踏まえまして、本町通り商店街、中心市街地、過去のいろんな計画を振り返ってみますと、行政と民間の皆さんと一緒に活性化計画などをつくりながら時間がたってきておりましたけども、なかなかその計画の実効性に移っておらなかったということは我々も反省せんならんところがあると思いますし、また、あるいは行政ばかりでなく、実行部隊である皆様方も振り返ってみる。これが今回の復興の大火の1つの視点ではないかなというふうに考えております。

確かに被災の前に人通りがどれだけあったかということにつきましては、衰退していたのは私も認識しております。ですから、この大火を踏まえまして官民一体となってみんなでにぎわいを醸し

出していこう、一致団結して復興を頑張っていこうという機会がこの時期でないかなというふうに捉えておりますので、計画が実施段階になりますと官民一体となって皆さんで総力を挙げて一丸となって復興まちづくりを取り組んでいく必要があるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大変立派なご答弁だったと思います。ただ、さっきの私が紹介した意見を述べた方は、お名前言うのは控えますけど、長く糸魚川でご商売されて本町通りをまとめてきた方なんです。その方からあの場でこういう話が出たということは、私が想像するに、行政のほうは、今、課長が述べたような官民一体で何か検討して進めているという、本当にそういう動きがあるのかしらと、この点なんです。糸魚川のまち、商業に携わってきた人があそこでそういうことを言ってる。まずそういう方のところへ出向いて、今これだけ進みますと、いかがですかという、そういうようなコミュニケーションがあったのかなと私は思いました。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

今お話いただいた、また被災者説明会で発言された方のところへ訪問して今お話のようなご意見を聞く場面というのはつくってまいりませんでした。我々は本町通り商店街の皆様方との会議、あるいは被災者説明会、ブロック意見交換会の中から通して意見をいただいてきたということでございますので、個人の方のところへ行ってお聞きをするという場は設けてきていなかったということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

確かに個人で参加していたかもしれない。だけど計画書を皆さん見れば、誰がここに携わってきたのかということはわかるわけです。まちづくりの計画って100本つくって1本実行できれば、本当そのぐらいの確率なんです。だけど本町通りの雁木の町並みづくりはやったんです。相当な苦勞しました。行政からの支援もありました。だけど皆さんにしてもらいたいことは、どんな苦勞があったかなんです。官民一体で進めるために皆さんの気持ちをまとめて、1つの事業をやるためにそれで苦勞した人の話、これは何十年たっても変わらない。新しいまちづくりでやはりそういった方のところへ尋ねて行ってお知恵をかりたらどうでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

ご提言ありがとうございます。今いただいたお話を実行してまいりたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

次の話が一番悩ましいいんでしょうが、商業地として店ができて客が来てにぎわいをつくるための核となる施設が明らかでないんだと、計画でね。加賀の井酒造さん、割烹鶴来家さんの再建があれば、そこへ来る客もいるだろうが、それだけではにぎわいにはならない。人を集めにぎわいをつくる仕掛けが必要だと。加賀の井さん、鶴来家さんが繁盛するための商店街、全体的な仕掛けを今一度考えてみるべきではないか、広域的に客を集める仕掛けが必要ではないかという意見も出されたと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

中心市街地への人の流れ、これは市民の皆さんの人の流れを本町通りに流れを変えということも必要だと思いますし、それによってやはり本町通りのにぎわいが出てきて、それがやはり市外の皆様にも認知されて交流人口の拡大にということでないかなというふうを考えております。

検討委員会、あるいは会議所のビジョン委員会の中でもある議員の方のご発言がありましたけども、市民が関心を持たないところに交流人口、外から来てくれる人の魅力というのはどうなんだというふうなご意見もあったように、市民の皆様の方の人の流れ、については外からの交流人口の流れもふやしながら復興まちづくりで本町通りのにぎわいをつくり出していく必要があるというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう1つ、被災者の方からのお話で、にぎわいの拠点として、防災センターに大火のメモリアル施設をつくり大画面で大火の様子を放映するようだが、真っ赤に燃え盛った火事の様子など見たくない、少なくとも自分は二度と大火の様子など見たくない、そういう発言がありました。私からもいま一度同じことを聞きたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

今のご提言のように、被災者目線に立って物をつくり考えていくということも大切だというふう

に認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

被災者の皆さんの思いと行政の進め方、大きなギャップを感じ、それだけ復興まちづくりが困難で厳しいものだという現状を私なりに確認した時間でありました。市長行政はこのまま進めて現在のような計画を定めるのでしょうか。8月には計画をまとめるということですが、いま一度被災者の皆さんや周辺住民の皆さんのほうを向いて同じ気持ちになって復興のまちづくりを考えてほしいと思います。何を大義にするのか、リアルな復興とは何か、これは私たち議員にも突きつけられた課題と言えますが、市長、最後この点について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田 徹市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

このたびのこの復興まちづくり計画につきましては、やはり被災者を中心に考え、被災事業者を中心に考えていくわけでありまして、そのための復旧・復興だと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私は、春の選挙でしばらく計画づくりの場から遠ざかっていたのでスケジュールに間に合うよう自分の提案を盛り込んでいただきたいと。計画案を読むとき、これまでの全員協議会や特別委員会で質問し、意見し、提言申し上げてきました。ただ、先日の被災者説明会でこの計画の施策に心を傷つけられるという方の悲痛な声を聞いて、内容と進め方が慎重さを欠いたものでなかったかとの疑問を持ちました。

一方では、自分の知識や経験を参考にしてほしいという気持ち、一方で被災者お一人一人の気持ちを酌み取ってこそその復興・再生ではないかという気持ち、この2つに引き裂かれながら今ここに立っています。そのくらいこの災害からの復興計画は重いものであり、苦しいものであることを実感しています。そのことを市長初め行政の皆さん、議会の皆さん、市民の皆さんに訴えて質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で田原議員の質問が終わりました。

11時20分まで暫時休憩します。

（午前11時09分 休憩）